

## 俳優 北大路欣也さん

kitaoji kinya

俳優・北大路欣也さんが、14歳で上京して活動の拠点としたのは新宿。  
日本の演劇界を代表する北大路さんに、当時のことや新宿への想いをお聞きました。

いつの時代も、新宿は賑わいのま  
ちです。いろいろな方が自由に、と  
きに奔放に、思い思いに楽しめる  
場所です。

14歳のとき、俳優業のために上  
京した僕をお世話してくれたご  
夫婦から、「東京のことを教えて  
もらいなさい」とある男性を紹介  
してもらいました。その方は、秋  
山幸輝さんという方なのですが、  
彼は当時20歳ぐらいで新宿生ま  
れの新宿育ち。彼との出会いに  
よって、僕の青春時代の中心地が

## まちは生き物

## これからも新宿とともに

新宿になりました。

日活や東映の映画を見に、たび  
たび新宿へ。劇場も多かったので、  
見たい作品があると新宿へ連れて  
行ってもらいまし  
た。秋山さんは洋服

大学時代を過ごした  
早稲田の地



四谷の外濠周辺は  
お気に入りジョギングコース

店の若旦那だったので、西新宿の  
お店で服を仕立ててもらおうこと  
もたびたびありました。

高校卒業後は早稲田大学への  
通学に利用して  
いたので、明治通  
りは馴染み深い  
ですね。当時は、

トロリーバスが行き交っていまし  
た。授業のあとは、友達と大学近  
くのうどん屋でお腹を満たした  
り、ときには「今日は新宿へ繰り  
出そう」「高田馬場へ行こうよ」と  
誘い合つて出かけた。今でも大  
学近くを通ると、当時のことを思  
い出して懐かしくなります。

東京オリンピックが開催された  
のは、大学在学中です。開会式で  
航空自衛隊が空に描いた五輪の  
雲を、間近で見っていました。  
オリンピックに向けて、東京のま



ちはどんどん変わりました。新宿  
は、初めて訪れたときにはまだ淀  
橋浄水場があつて、あちこちに森  
が点在していたのですが、次々と  
開発が進みビルが建ち並んでいき  
ました。

以前出演していた作  
品で、好きな台詞があり  
ます。「まちは生き物」。  
昔ながらの良さももち  
ろん魅力ですが、まちは  
変わって当たり前。人や  
物が活発に動き、活性化  
している証拠です。

14歳のときからご縁  
のある新宿には、ひとときわ愛着が  
あります。現在では、ドラマのロケ  
撮影などで区内のいろいろな場  
所にお邪魔していますし、これか  
らこのまちとともに歩んでい  
ければと願っています。



1975年放送のドラマ「新宿警察」のロケ地  
歌舞伎町

京都府出身。1956年、13歳のとき映画「父子鷹」でデ  
ビュー。俳優業のため、14歳で東京・千代田区の暁星  
中学校に転校。1961年、早稲田大学第二文学部演劇  
学科入学。1968年、大河ドラマ「竜馬がゆく」に主演。  
その後も「独眼竜正宗」など数々の大河ドラマ、時代  
劇、現代劇に出演。2021年1月より放送の「神様のカルテ」  
(テレビ東京)に出演。2020年は、「半沢直樹」  
(TBSテレビ)、「記憶捜査2～新宿東署事件ファイル  
～」(テレビ東京)などに出演。2007年に紫綬褒章、  
15年に旭日章を受章。